

ほし 彩星 だより 第81号



若年認知症家族会・彩星の会会報

平成 28 年 9 月 9 日

〒160-0022 新宿区新宿 1-25-3-302 TEL 03-5919-4185/FAX 03-5368-1956 E-mail:hoshinokai@star2003.jp

巻頭言

『世の中、暗いニュースも多いが、 我々の彩星は明るいぞー』



彩星の会副代表 森 義弘

彩星の会が今年一番輝いたことは、定例会場として昭和女子大学の会場をご提供いただけたことと、そのことにより人間社会学部福祉社会学科吉田ゼミの学生さんにサポーターとして参加をしてもらうことができたことである。首都大学東京荒川キャンパスと昭和女子大学のいずれでも、若年性認知症を広く地域社会に発信できることとなった。

定例会では、現場体験や介護そして法的支援の問題点などについて、介護者が保有している情報を参加学生に提供でき、そうすることで、大学および学生に「何を、どのように、すればいいか」の問題提起ができる。学生は、いくつかの思考過程を経て、制度の改善や介護に必要な知恵が創り出す。そのことにより介護や福祉の向上に繋がっていく。介護現場にロボット導入が採用されつつあることも、わかりやすい一例である。しかし、一番大切なことは、「こころ」である。介護に携わる職業では、特に重要なことである。

その「こころ」を、明るさと一緒に見ることができたのは、五月の新宿御苑で開催した家族会であった。そこでは、サポーターの学生と介護家族が昼食をともにした。福祉や介護に関心のある学生だけに、介護者の話す内容を聞き漏らすまいとする真剣さが伝わってくる。介護者もそれに応えようと熱心に返答する。学生と介護者の介護に関する真剣な言葉のキャッチボールである。介護される本人をマンツーマンでサポートする学生には、本人の気持ちを大切にしている心があるから、本人の表情も笑顔があり穏やかであった。

このように、両校の学生と彩星の会との交流が長く続くことで、我々は、介護、福祉の未来像を見ることが出来る。学生にとっては、勉学と体験とが相乗効果となって、机上では得ることができない豊富な知識となる。将来がとて、楽しみな学生ばかりである。出会った学生たちが福祉や介護の教育現場で、メディアに出るのは近いと確信している。

彩星の会にとって二番目に輝いたことは、会費の未

払い者が減ったことである。会員名簿を整理したことと、本来は不要であった発送先が整理できたことだ。会費未納者には、会報で働きかけをしたことにより、従来より大きく改善できた。その結果、経費の節約になり、会の運営が一段と安定したことである。また、一部の会員に対して『彩星だより』をメールで配信するようになった。以前は、会報のすべては郵送をしていた。会報をメール配信で行うべきだとの意見は、以前よりあった。一部の会員宛ではあるが、会報をメール配信ができたことにより、会報発送に必要な郵送費用の節約と世話人による会報発送の時間と労力の軽減となった。収入増と言える。

さらには、定例会の参加者が、わずかではあるが増えている。特に定例会の終了後の二次会は、参加者が多いことにより会場を探すのに苦労するぐらいである。参加の魅力は介護仲間の再会と飲食は勿論ではあるが、何よりも介護者同士の意見交換ができることにある。安心して話せる、安心して聞ける場所として、二次会が定着してきたのである。

本人をサポートするための企画もたいへん好評である。いつも、定例会場と隣接している教室が本人の楽しめる場所である。企画は、本人が参加しやすいようにして、そこに、季節感を加え、本人がサポーターと一緒に、歌ったり、踊ったり、リハビリにもなるように工夫している。天候がいい時は、室外に出て、施設内を散策する。これは、世話人と、サポーターの心が、本人へとつながる貴重な場所と時間である。

この会を全国の若年性認知症の人から、期待される彩星（ほし）にしたい、と考えている。





7月定例会・報告



家族交流会

《質問と回答の一部を紹介します》

7月24日、昭和女子大学にて定例会が開催されました。

始めに、5月に開催された新宿御苑での定例会。また、6月に行われた千葉白子温泉、鴨川シーワールドへの一泊旅行の写真を全員で観ました。

参加した人たちは、楽しかった行事を思い出して喜び、残念ながら参加できなかった方達は皆さんの楽しんでいる姿に癒されていました。

スクリーンに映し出された写真を観たあと、ご本人とご家族に分かれ交流会が行われました。



家族の部は、日頃会員の方が抱えている悩み、疑問などを話し合う質疑応答の時間にしました。定例会があった日の午前中に、同じ昭和女子大学で『若年認知症サポートセンター』の総会が行われ、そこに参加された彩星の会の顧問4名を含め、かかわりのある2名、合計6名の方がそのまま残り、会員からの質問に答えて下さいました。

南魚沼市民病院事業管理者 **宮永和夫氏**、若年認知症社会参加支援センター「ジョイント」所長 **比留間ちづ子氏**、首都大学東京教授 **勝野とわ子氏**、社会福祉士・精神保健福祉士 **木舟雅子氏**、国際医療福祉大学大学院准教授 **小野寺敦志氏**、若年認知症サポートセンター理事 **松井文子氏**。

みなさん若年認知症の本人と家族の尊厳を保ち、安心して暮らせる社会の実現のため、専門家の立場から私達をサポートすべく活躍されている先生方です。

会場からの質問に、あらゆる角度から丁寧に答えて下さいました。当初1時間の予定でしたが、質問が多く出て定例会が終わるまで2時間もの間、最後までご参加下さいました。

Q: アルツハイマー型です。以前は「こういうことをしたでしょ」と言うと思いましたが、今は何かをしてもすぐに忘れて、思い出せない状態です。今後注意をすること、気をつけることは何でしょう。

A・奥様がそういう病気の面を受け入れられるかどうかだと思います。

・何度も同じことを言うことがあります。ご本人は忘れていたので仕方ないと思います。

・奥様が自分の感情をコントロールして、本当に初めて聞くかのような気持ちで対応するとご主人も安心します。

・無理に受け答えをしていると口調がぞんざいになったり相手に嫌がっているのが伝わってしまう。

・初めて聞くかのように演技すると穏やかな気持ちになってくれます。

・作業場で仕事をしているとすぐ忘れる人がいます。「俺なにやってんだっけ?」「それをやってるんじゃないの」「あっそうか」これで戻って来てくれます。

・自分が慣れ親しんだ材料があると良い誘導ができます。それだと本人もあまり抵抗がありません。言葉で聞くと瞬時に消えるけど覚えている記憶の材料があります。

・音だっり香りだっり、好きなもの、写真、等々。キーになる材料を色々持って引っかけりを用意すると良い。

・記憶がなくなるのは困ったことだけどそれを補う何かがあるはずだと思って探していくのもいいのではないのでしょうか。

・記憶は短期の記憶、長期の記憶、色々あるが、瞬間的な受け答えはアルツハイマーの人は落ちないと言われている。

・BPSDとか行動の問題が無くて記憶だけ落ちていればこちらとすれば対応の仕方も楽。記憶の中でも毎日日常的にやっていることの記憶はなかなか落ちないから、ルーティン化、同じことを同じパターンでやるのが大事。

・記憶にポイント持っていきより生活に持っていき、気持ちが安定することに持っていき方がいい。記憶にばかりいくとお互いがストレスになる。

・つかかたり、また同じことばかり話すというのは両方のストレスになるので、それはこちらも忘れたほうがいい。

・生活全体を楽しめる形にポイントを変えることが認知症には良いのではないかと。

Q: 障害年金1級にするには、要介護3以上になることが必要ですか。

A・障害年金と要介護は全く別の制度です。連動はし

ません。

- ・医師が障害年金の診断書を書いてくれない場合は、有料ですが社会保険労務士が相談にのってくれます。
- ・病院のソーシャルワーカーがいる場合、相談すると良いです。丁寧に説明しないと伝わらない場合もあります。
- ・先生の書く内容も項目に「できる」と書いてしまうことがありますその時は「家ではできません」等家族から言って書き直してもらうことも必要です。診断書はコピーして手元にも置いてください。

Q：意味性認知症と診断されて7年。発症はもっと前。最近パーキンソン症状が出てきた。嚥下がしにくくなってきた。食べることが大好き。大食いだった。のどの痛みがあり溶連菌感染症と診断されて1カ月近くになる。噛むことは出来ても、飲み込むことが出来ない。小規模多機能に入っている。今も食べられない。治るか心配になる。パーキンソン症状と嚥下について聞きたい。病状の進行によるものか、または薬剤性のパーキンソン症状も疑う。入院前の受診もすぐパーキンソンだと言われ、薬を処方された。どういうことが良いのか悪いのか、先生との付き合い、自分の捉え方もどうすればいいかととても悩んでいます。

A・意味性認知症というのは、前頭側頭葉変性症の中の一つ。意味性認知症とか前頭側頭型認知症と言われているものは原則パーキンソン症状は出ない。

・パーキンソン症状はどちらかというとしびー小体型認知症とか、アルツハイマーの一部、特に若い人の中にパーキンソン症状が出る人はいるが、前頭側頭型認知症や意味性認知症についてはどちらかというとしびー、錐体路・錐体外路のパーキンソンではなく、麻痺っぽくなったり、神経ニューロンなど別のものが出ることはある。

・パーキンソンとか、嚥下の方については微妙ですけど、嚥下については錐体路、錐体外路でも出るのでなんとも言えないですが、もし一緒に考えるとすればパーキンソン症状でも嚥下障害は出るので、両方ともいわずそのパーキンソン症状を抑えるか、または薬の中に抗精神病薬があれば抜いた方がいい。(今は全部抜いた)

・ニュープロパッチはパーキンソンに使う薬で、それはどっちかというとしびーパーキンソンで出てくる嚥下障害みたいなものを抑え改善させる意味ももっている。

・それでも嚥下障害が残っていたりパーキンソン症状が出てるようなら普通は病気や抗精神病薬によるパーキンソン症状も薬でおさえられる。おさえられないのは別の病気。進行性の核上性麻痺では見たことがある。普通のパーキンソン病では見たことはないが、70歳、80歳だと合併していることもある。

・進行性核上性麻痺とか大脳皮質基底核変性症というものは、実はパーキンソン症状の問題が出るけども、なかなか効かない。どうしても心配だったら神経内科の専門医にもう一度見てもらったほうが良い。

・薬剤性のものであれば、3カ月くらい経てばころっと収まる。もし収まらなければ別の病気の可能性があるから、パーキンソン以外の可能性も確認してもらう

のがいい。

- ・嚥下について、食べるけどいつまでも口の中に入っているのは飲み込むポイントが分からなくなることもある。
- ・リハビリ的には、よそ見が出来ると、色々な動きがある、はつらつさ、刺激に応じる力、軽く気分が変わること。
- ・薬に頼ることよりも、もっと本人の訴えていることに注目すると良い。

Q：要介護5、入院5年。2週間前に誤嚥性肺炎。去年の9月にもあり今回で2回目。口から食べるのは無理なので点滴だけにするのに了承してもらえるか医師から言われた。ニコニコして感情が残っているが、点滴だけだとおそらく3カ月の命になってしまう。若年でまだ63歳。このまま看取りにするのか、胃ろうなどの処置をするのか悩んでいる。

A・奥様がどういう方だったか。奥様がどう生きたいかをどうしたら一番支えられるかというのをしっかり持ってほしい。

・最後に望むことはどういうことだろうか。一番そこを考えるべきなのかなと思う。

・現状を把握して、嚥下障害を起こしているといってもどの程度なのか、どの時点までは用心して食べることが出来るのか。

・自分を納得させるために現状を理解する検査をいくつかしながら決めてほしい。

・誤嚥を起こしたことに對して。専門病院で誤嚥性肺炎をちゃんと治して帰ってもすぐまた誤嚥を起こして禁食とのことだが、大半は体位の問題もある。下手な人が食事介助をした可能性もある。

・誰がやっても、食べ物の種類、どの方法で行っても、その施設のきちんとできるちゃんとした人がやっても、どうしても誤嚥おこすとなるなら、半分は信用するけども、それを1回の繰り返して食べるのをストップと言うのは少し腑に落ちない。

・嚥下機能検査は、食べさせ方のやり方を調べるということもある。食べるのをやめさせても、自分の好きなものは食べることもある。また、覚醒レベルの問題もある。

・しっかりしている時にちゃんと行えば良いのに、そうでない時にやるとだめ。1回2回の嚥下の検査でわかるものではない。

・食べられる形のもので全部トライする必要がある。それをしないで、1回誤嚥したから危ない、すぐ食べるのをやめるといっては淡泊すぎる。病院、施設には家族の思いをしつこく言った方がいい。

Q：便秘が続き、下剤を使うことを繰り返している。良くならないのか。

A・便秘はあまり治らない。薬剤を使って刺激して腸の動きを良くする。どちらにしても体動かさないと腸も動きよくなる。

・便秘は3日出なかつたら出した方がいいと思う。

本人交流会

7月のさわやかな晴れ渡った日、昭和女子大は見学会が行われていて、多くの人でにぎわっている中での定例会となりました。

午後1時、ご本人とご家族と一緒に一つの教室に集まり、5月の御苑散策の写真を鑑賞しました。その後、ご本人達とサポーターは隣の教室に移って、定例会の終わりに行われる「ほし市場」のために、わいわいにぎやかに、みんなで、販売促進会議、値段付け、袋詰めをしました。

「ほし市場」の準備ができれば、お楽しみの学内散歩です。見学会参加の女子学生であられる学内の散歩。自然と笑顔が出てきます。

教室に戻ると、今回のメインイベント＝スイカ割りをご用意されていました。



これがなかなか難しい。色々な方向から、「右だ」「左だ」と声がかかり、目隠しをしているご本人は位置がつかめない。また、やっと当たったスイカが大き過ぎて割れない。それでも、少し時間がかかったけれど、見事に割ることができて、みんなで美味しいスイカを食べることができました。

この後は、恒例の歌声喫茶です。懐かしい青春時代の歌をみんなで大合唱。特に、先日亡くなった永六輔さんの、「見上げてごらん夜空の星を」「上を向いて歩こう」ではひととき大きな声が出ていました。

最後に、みんなで準備した「ほし市場」が開かれました。おかげさまで、きれいサッパリ売り切れました。

(s)



<久しぶりのフォークダンスにニコリ♡>



介護支援専門員の渡辺孝行さんの巧みなリードのもと、ご本人も学生サポーターさんもとてもリラックスできました。♡

彩星の会 感想

昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科
吉田ゼミ 4年 小川優香里



今回の活動では、書記を担当した。その際に、プロジェクターを使用して担当割り振りを決定していた。これまでは黒板に記載していたが、プロジェクターで表示した方が修正がすぐに行えることや担当割り振りの紙をすぐに印刷出来て見やすくなることから今後も効率的であると感じた。

本人サポートで、私は前回に引き続き M さんを担当した。事前の連絡では、症状が進行しているとのことであったが、動作のスピードや会話の中で質問した際に返答が少し遅くなったと感じることが少し多くなったように感じた程度で、目立った変化は見られなかった。

会話では、私からだけではなく M さんから話しかけてくださることもあったことが嬉しく感じた。散歩の際には道が二つに分かれている時は、必ずどちらの道に進むか M さんに聞いて、時間がかかっても M さんがこっちにしましょうと言った方に進み、ご本人の意思を尊重するように工夫した。散歩の帰りには、自主的に Y さんの車いすを押す姿が見られ、M さんの優しさ嬉しさを感じると同時に、今まで見られなかった自主的な行動に驚きを感じた。

スイカ割では初めはあまり乗り気な感じではなかったが、後半は楽しそうに参加されていた。スイカが思っていた以上に硬かったようで、中々割れなかったため、初めから少し割れ目を入れておくなどの改善が必要であると考えた。季節に沿ったイベントを盛り込むことは、サポート側の学生としても楽しむことができてよかった。散歩の際に、蚊に刺されてしまったので、この時期は虫よけスプレーがあると便利だと気付いた。

学生サポーターさん感想 (抜粋)

昔の話なのか、最近起きたことなのかなど、内容がわからずただ笑顔で相槌を打つことしかできませんでした。わかりたくてもわからないモヤモヤと申し訳なさがこみ上げてきました。机上の勉強も大事だと思いますが、実際に関わってみなくてはわからないこともたくさんあるのだと実感しました。百聞は一見に如かずとはこのことだと感じる日でした。(3年小林優衣)

今までは、本人が言う言葉の意味を汲み取ろうと努力しておりましたが、言葉の意味をそのまま解釈するのではなく、雰囲気や言いたいことや気分を感じとることも大切だと感じました。(4年増田愛実)

スイカ割りやってみますか?と聞くと「スイカが可哀想だからやらない。」とおっしゃっていて、微笑ましい気持ちになりました。とても可愛らしい方だなと思いました。(3年大久保知秋)

Sさんは私が話を投げかけると自分のことについて話してくれました。しかしこの時だけは、「この歌中1の時に歌ったんだ。」と、自分から嬉しそうに話してくれました。

今まで私達が学んできた回想法は、ふとしたところで起こっているのだと感じました。(3年鈴木あゆ美)

Oさんはとってもレディーファーストな方だったので私の席を確保してくれたり、スイカを分けてくださったり、車いすを押すなど優しく嬉しかったです。(3年佐藤美月)

利用者の方が突然『上を向いて歩こう』を歌い出して驚きました。1度歌ったあとは「いい歌だねえ」と言いながらほかの方々が他の曲を歌っている中でも1人で何度も『上を向いて歩こう』を歌っていました。(3年炭谷佳奈)

お散歩に行く途中、トンボや蝶を見ると昔捕って遊んでいたことを話してくれた。今でも鮮明に覚えていることに驚いたと同時に嬉しくなった。歌が好きなのか聞いてみると「ムリに歌わされることは嫌いだ」と言っていた。それでも歌詞カードを見ながら目をつぶって感情を込めながら歌っていて、気持ち良さそうだった。(3年西ヶ谷咲子)

Fさんはいい意味で野次や冗談を入れ場を盛り上げます。冗談を言いあえるまでFさんと仲良くなりました。私は緊張すると話すスピードがとても速くなってしまふ癖があるので、いろいろ言いすぎてしまっただけなのかもしれませんが…。(3年鈴木ひかり)

前回に引き続きMさんを担当した。事前の連絡で

は、症状が進行しているとのことであったが、動作のスピードや会話の中で質問した際に返答が少し遅くなったと感じることが少し多くなったように感じた程度だ。会話では、私からだけではなくMさんから話しかけてくださることもあったことが嬉しく感じた。(4年小川優香里)

前に担当させていただいたTさん。今回の活動で、Tさんは奥様がそばにいないと不安な気持ちがあるのではないかと感じた。ご家族の思いを受け、家族の会の時間だけはリラックスしていただきたいと考えるが、ご本人がご家族を求めている状態でこういった関わりをすれば良いのかわからず、困難に感じることもあった。(4年橋本由梨)

Sさんの奥さんからは「女子大生がいると違うんですね」と言われた。私たちが一緒に行動したり、話しかけたりすることが、本人の行動に変化を与えているということが嬉しく思えた。毎回の活動でご家族の方から「ありがとう」というお言葉をいただき、とてもやりがいを感じている。(4年寺田早希)



二次会交流会

7月25日定例会が盛況のうちに終わり、いつものように21人が三軒茶屋の居酒屋、『村さ来』に集合しました。夏休みはどこへ行くのか、何を食べるかなど様々な会話が行き交っていました。

毎回そうですが新人さんも自然と皆さんの中に打ち解けて、新旧ワイワイガヤガヤ、彩星の会のノミニュケーションがくりひろげられました。時間が過ぎても数人が残り、飲み直しをしていました。皆さん無事に帰ってください。(O)



人今人

『今』

牛塚康子

本人：夫 68歳 意味性認知症
診断：2009年（平成21年）61歳の時
介護保険：要介護 4
現在：小規模多機能型居宅サービスを利用
東京都在住 夫婦二人と犬一匹

12月で69歳になる夫は、意味性認知症と診断されて7年になります。初診の時、7年前から自覚があったと医師に話をしたそうです。

発症がその頃だとすると、もう14年になります。

最近は、発語がほとんどなくなってしまいました。歩行も困難になってきました。

1年2ヶ月間の精神病院での生活を終わらせ、在宅介護をするようになって数ヶ月。「無理はしない」と決めています。

夜中に起きて自転車で遠出をしたり、コンビニや飲食店に入って迷惑をかけたことも、もう過去のことになりました。

ほとんど介助がなければ生活できない状態になって、介護は、いよいよ大変になってきました。

ソファで横になった夫の体を起こそうとして、腰を痛めた時はすぐに小規模多機能に助けを求めました。

「そのままにして待っていてください。」と家の中まで来て、夫を起こし車に乗せて連れて行って、急遽泊まらせてくださいました。

溶連菌感染症に罹って喉の炎症のためか飲み込みができなくなった時はスタッフがとても心配して、1ヶ月もかかってすっかり回復すると何度も「食べられるようになって良かったですね」と喜んで声をかけてくださいました。

この小規模多機能のお陰で、なんとか在宅介護ができています。

私の都合で「通所」と「泊まり」を組み合わせています。

無理をせず「泊まり」を多くすることもできます。

先日、思い切って新潟の私の実家まで車椅子を借りて夫と車で行って来ました。

ドライブが大好きな夫は大喜びでした。以前のように勝手に歩き回って放尿する等の心配もなくなりました。

車椅子専用の駐車場を利用して、車椅子で散歩もできました。車椅子から車の座席への移動も、今ならなんとかできています。

3泊4日の短い旅でした。実家なら泊まれるという自信もつきました。

この調子なら、時々ドライブも楽しめそうです。まだまだできることがありそうです。

今のこの時間を大切に楽しく暮らしたいと思います。





平成28年参議院選挙 期日前投票会場での出来事

龍 平四郎

今回は、選挙の投票が、すんなりいくか心配しながらも、近くの投票会場まで、妻と一緒に出かけた。投票所会場の玄関前に着いた。車椅子の姿を見て、女性がこちらに近づいて来た。選挙と書かれた腕章をつけている。「こちらです」と広げる手の方向に進むと、投票所の係員と見られる男性がやって来た。妻は、投票用紙と、持参したメモ紙を渡した。そこには、

『私・・・は、書くことができませんので、代筆をお願いします。都選出議員に・・・、比例代表の党名は・・・』と書かれていた。私は、妻がメモを渡した男性の係員に、「本人は、物事は分かりませんのでよろしく」と一言伝え、車椅子のハンドルを彼に任せた。

投票所の入り口には、妻より先に私が入り、受付で本人確認の手続きをした。会場内を見渡すと、投票に訪れた人たちよりも、関係者の人数の方が多かった。最初に、都選出議員投票用紙が渡された。所定の筆記台で候補者名を書き、その用紙を投票箱に入れた。

係りの人に任せていたので、妻の様子を気にかける事なく、次の比例代表を記入する投票用紙を受け取った。所定の筆記台で党名を書き、その用紙を出口の近くにある投票箱に投函した。振り返って妻の様子を見ることは、一度もなく出口付近に来た。そして、そこで初めて振返った。

妻の姿を探していると、筆記台のところで、車椅子の妻を挟んで立っている、二人の係員が見えた。一人が何事かを話かけているように見える。それは、紙に書かれている候補者名でいいかどうかを、妻に確認しているように見える。その確認した候補者名を、もう一人の係員が投票用紙に記入するのであろう。私はその光景を見ていて、二人の係員は手間取っているように感じた。もちろん、私には聞こえないが、次のような、やり取りの内容であろうと推測できた。

車椅子のハンドルを握っている男性が、車椅子に座っている妻の頭の上から、「この紙に書かれた、候補者でよろしいですか」。妻は、無言である。再度、男性は、「この人でよろしいですか」。相変わらず妻は、「・・・・・・・・」である。もう一人の係員は、いつでも書ける体勢で持っている。その後、双方の係員の合意で、妻から渡された紙に書いてある候補者名を、筆記台の傍に立つ係員が書いたようである。他の筆記台では、数人が記入している。

妻は、持たされた投票用紙を投函するために、車椅子を押されて投票箱の傍まで移動して来た。選挙管理

委員会の規則では、投票用紙は、本人の手によって投票箱に入れることが原則なのである。係員は、その決め事の通りに投票箱を指し、「ここへ入れて下さい」と言っているようだが、妻には意味が分からない。投票用紙を持っている手を上に上げていているだけなのである。「ここに入れて下さい」ともう一度言った様子ではあるが、やはり、妻は投票用紙を手を持っているだけだ。二つ折りにした投票用紙を、投票箱に投函しようとしている人たちが、妻を先頭にして並び始めた。この状況を見た別の係員が、設置されている投票箱を持ち上げてそれを斜めにして、投入口を指さしながら妻に向かって「ここです」と言った言葉が聞こえた。

その様子を見ながら、出口で待っていた私は、一妻の尊厳が汚されていると思った。私は係員に向かって「本人は、分からないのだから、あなたが投票箱に入ればいいのではないですか。他の係りの人たちもこの状況を見ているし、分かってもらえますよ」と少々声を荒げて言った。一瞬空気が張り詰めた。すぐに、私は、待っていた出口の場所から妻のところに駆け寄り、「だいじょうぶだよ」と、手を握って声をかけた。

投票箱を斜めにした場所は、二番目の比例区だった。とすると、最初の都選出議員のときは、妻は問題なく投票箱に投票用紙を自分で入れることができたのだと思った。まあ、そんな事はどうでもいい事には違いないが、今回の選挙投票は前回より神経を使った。しかし、国民の義務を果たした満足感は十分あった。

私は、今回のように自力で投票ができない人のために、次の投票方法を提案したい。

- 投票用紙を投票箱に、本人の手から入れることが難しい場合は、随員の係員が代行できるものとする。
- 記入済の投票用紙を持った係員は、会場の選挙関係者が見えるように、手に持った投票用紙を上げて、声出しなどで意思表示をしてから、投票用紙を投票箱に投函する。

選挙管理委員会は、ハンディキャップのある有権者のために、選挙の投票方法に弾力性を持って運営することが肝要である。





お知らせ



■9月定例会（今回の■家族交流会は下記「講演会」です） 「若年性認知症にやさしい地域づくり講演会」

-若年性認知症と共に生きる家族-

日時：9月25日（日）13：00～15：30（12：30会場）

会場：昭和女子大学 コスモスホール（80年館西棟6階）

定員：190名 住所：世田谷区太子堂1-7-57（別添地図参照）

*ご注意！駐車場のご用意はありません、近くの有料パーキングをご利用ください

■本人交流会≪別室にて開催≫：3号館2階の教室に 12：50までにお越しください。

*お願い！

今回は講演会会場とご本人の会場が隔たるため、行き来がしづらくなることが予想されます。そこで安全性確保のために完全予約制をとらせていただきます。ご本人同伴の方は必ず彩星の会事務所まで用でお申し込みください。

よろしく申し上げます。

■バザー出品物募集 *お願い(事務局までご送付またはご連絡ください)

10月30日(日)10:00～新宿区立障害者福祉センターで開催の
『センター祭』に出店予定のため

■ご相談・ご入会は 彩星の会事務局 までご連絡ください

【相談日】月、水、金 10時30分～16時

電話：03-5919-4185 FAX：03-5368-1956

携帯電話：080-5005-5298（相談室：干場）

e-mail：hoshinokai@star2003.jp HP：<http://star2003.mdn.ne.jp>

■年会費 家族会員 5,000円 賛助会員 A5,000円/B3,000円/C10,000円

■お申込み（ご入金）は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年認知症家族会・彩星の会



編集後記：『世界に一つだけの花』という歌の中に「～僕らは世界に一つだけの花 ひとりひとり違う種を持つ～もともと特別なオンリーワン～」という詞がある。命も個性も唯一無二のもの。お互いを認め合う気持ちがあれば、いじめや差別はなくなるはずなのに。暗いニュースを耳にするたびにそう思う。(F)

